

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成28年度技術情報第15号（バレイシヨの疫病）について（送付）

バレイシヨの疫病について情報を取りまとめたので送付します。

1 農作物名 バレイシヨ

2 病害虫名 疫病

3 発生状況

(1) 発生地域 種子島，奄美地域（徳之島，沖永良部島）

(2) 発生量 多

4 情報の内容

種子島地区，奄美地域の徳之島，沖永良部島ではバレイシヨ疫病の発生程度の高いほ場が認められ，今後，被害の拡大が懸念されるため，適切な防除対策を施す必要がある。

5 情報の根拠

(1) 1月の発生ほ場率は種子島地区では67%（前年17%，平年17%），奄美地域では同50%（前年33%，平年16%）と平年より高く（図1，2），発生程度の高いほ場も認められた（表1）。

(2) 向こう1か月の気象予報では，降水量は平年並みとされ，例年この時期は曇りや雨の日が多く，今後も発病しやすい条件が続くと予想される。

表1 バレイシヨ疫病の発生状況 調査日：2017年1月16～19日

地域	調査ほ場数	発生程度			計	調査地点
		甚	多	中少		
種子島	6	1	1	2	4	西之表市
徳之島	6	1	3		4	徳之島町
沖永良部島	6			2	2	和泊町
計	18	2	4	4	10(56%)	

※（）発生ほ場率%

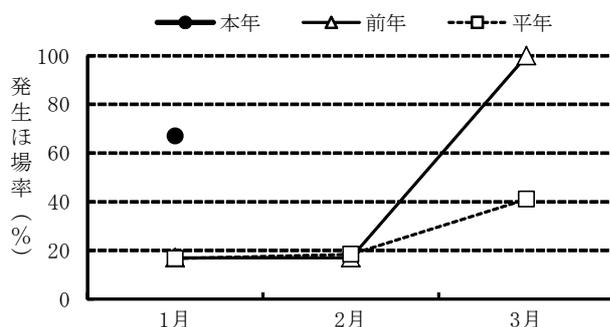


図1 バレイシヨ疫病の発生ほ場率（種子島）

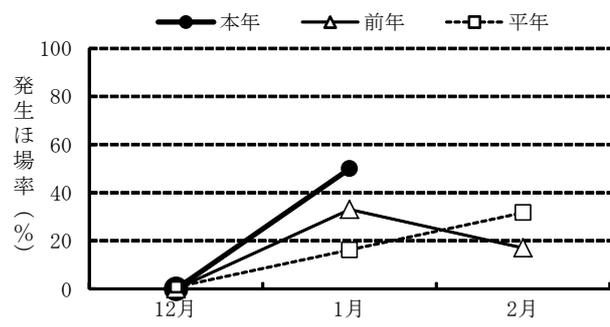


図2 バレイシヨ疫病の発生ほ場率（奄美）

6 防除上注意すべき事項

- (1) 発生ほ場では治療効果や残効性のある薬剤（表2参照）を7～10日おきに散布する。
- (2) 未発生ほ場では，防除は降雨前の予防散布に重点をおく。
- (3) 茎葉に病斑が多いと塊茎部への感染が広がるので防除を徹底する。
- (4) 同一系統薬剤の連用を避け，作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。
- (5) 排水の悪いほ場では多発しやすいので，排水対策を十分に行う。
- (6) 収穫残渣は次作の伝染源となるので，ほ場外へ持ち出して適切に処分する。

7 参考データ

表2 バレイシヨ疫病の主な防除薬剤の特徴

農薬名	系統名	浸透移行性1)	葉内浸達性2)	残効性	作用機構分類3)
エキナイン顆粒水和剤	①+②	○	○	◎	40, 27
エトフィンフロアブル	⑨	○	○	◎	22
カンパネラ水和剤	①+⑩	○	○	○	40, M3
ザンプロDMフロアブル	①+③	○		◎	40, 45
ダイナモ顆粒水和剤	②+⑤		○	◎	27, 21
プロポーズ顆粒水和剤	①+⑧	○	○	◎	40, M5
ベネセット水和剤	①+⑩	○	○	○	40, M3
ホライズンドライフロアブル	②+④		○	○	27, 11
ライメイフロアブル	⑤		○	◎	21
ランマンフロアブル	⑤		○	◎	21
リライアブルフロアブル	⑥+⑦	○	○	○~◎	43, 28
レーバスフロアブル	①		○	◎	40

注) 系統名

①CAA殺菌剤 ②シアナセトアミトキシム ③QoSI殺菌剤 ④QoI殺菌剤 ⑤QiI殺菌剤
 ⑥ベンズアミト ⑦カーバメート ⑧クロニトリル ⑨チアゾールカルボキサミド ⑩ジチオカーバメート

○：高い，◎特に高い

1) 茎葉に付着した薬剤成分が吸収され，植物体内移動により上位葉にも効果が現れる効果。

2) // が内部に浸透する性質。

3) 作用機構分類：FRACコード

FRACコードとは殺菌剤を作用機構別に分類してつけられた番号，記号である。

同じFRACコードの薬剤を連用すると耐性菌の発生リスクが高まるので，薬剤選択の際は注意する。